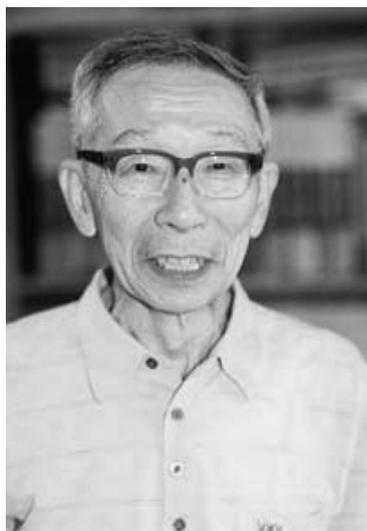
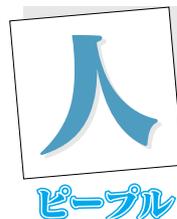


# 交流のひろば

情報をお寄せください。市役所広報広聴課 890-6642へ。

## 予期しない知らせでした

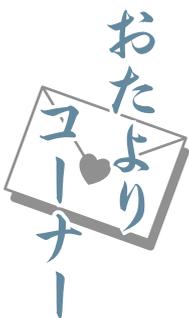


村上鬼城賞を受賞  
秋草 美俊さん(72)  
日吉町三丁目

先月二十一日、村上鬼城賞を受賞した。これは鬼城の功績を顕彰するため、昨年度に発表した三十句の俳句を一編として全国から募集し、最も優れた作品に贈られるもの。十七日の鬼城忌にちなみ、毎年、この時期に

高崎市で表彰している。「受賞の知らせにとっても驚きました。過去に三次選考まで残ったことはありますが、いつか佳作に入れればと、応募を続けてきたのです。未熟なわたしが選ばれたのも、鷹羽狩行、吉田銀葉両先生のご指導のおかげと心から感謝しています」  
受賞作は、「聴診器」と題し、産婦人科医の仕事や日常生活を詠んだ作品。人の生死に直面する毎日を通じた人生観、人間性などが穏やかな作風の中に感じられ、高く評価された。  
「これまで、仕事のことを詠んだものはあまり応募しなかつ

たのですが、初仕事父親ゆづりの聴診器」という句を冒頭に置き、応募しました。亡き父が五十歳を過ぎてても、戦中の大変な時代に自転車まで往診していた苦勞や医療に対する真剣な取り組み。わたし自身が年を重ねるにつれ、そうした姿が強く思い起こされるからなのです」  
大学卒業後、病院勤務を経て昭和四十二年に本市で開業した。「五十代半ばに医院で分娩の扱いをやめるまで、忙しくて俳句作りができませんでした。まだまだこれから。一日一句作ることを守って頑張りたい」と、静かに情熱を燃やしている。



## 手作り弓矢で

## 楽しい一日

西大室町・山田将大10

八月二日に、大室公園で行われた「古代生活体験」に参加しました。ぼくたちは、かざり用の弓矢を作りました。

弓矢を作るのは大変だったけど、中でも一番むずかしかったのは黒よう石という石をけずる

ことでした。ぼくたちにも矢じりが作れたのは、昔の人の作った矢じりが出土品として発見され、それを見本にできるからです。大昔の道具が今まで残っているなんて、すごいことだと思います。でも見本のようににはけずれません。昔の人は作るのがじょうずだったんだなと思えました。

古代生活体験の中で、一番楽しかったのは、最後にやった的当てです。ぼくたちのチームは一位になれなかったけど、三位になれたのでうれしかったです。みんなとがんばって作ったこの弓矢をずっと大切にしたいと思います。

## まちのニュース



日吉町四丁目

## 皆で楽しく 長寿を祝う



九月十五日、日吉町四丁目公民館で、敬老の会が開かれました。七十五歳以上を対象に、六十五人が参加。町内の女性が行った赤飯などを食べながら、舞台発表を楽しみました。

今年初の試みで、前女高キター・マンドリン部が生演奏。「月の砂漠」など懐かしい童話が流れると、メロディーに合わせ、出席者が歌詞を口ずさむ場面も。その後、婦人会育成会による南京玉すだれが披露され、会場は大いに盛り上がりました。

桜井宏昌自治会長は、「今後も新しい企画を考え、一層敬老会を盛り上げていきたいですね」と話していました。